

■農作業事故防止・熱中症対策

県内で農作業中の死亡事故が発生しています。トラクターなど大型の機械を使用する際や高所で作業する際は、十分注意し事故防止に努めましょう！

今後も気温が高くなる見込みです。熱中症にならないように、こまめな休憩・水分補給を行うなど対策を行いましょう！

■水稻

「斑点米カメムシ類」発生量は「多い」予想！！

薬剤散布は穂揃期（8月上旬）および穂揃期7～10日後（8月中旬）の2回を基本とします。高温が続いた場合、出穂期が早まることが懸念されるため、出穂状況をよく観察し、適期に薬剤散布を実施しましょう。

出穂期前後の草刈りは、斑点米カメムシ類の水田侵入を助長するため、防除が終了する8月下旬まで行わないようにしましょう。

斑点米カメムシ類はホタルイやノビエの穂に産卵し繁殖するため、水田内に雑草が残存している場合は早期に除草対応をお願いします。

▶出穂期～収穫期の水管理

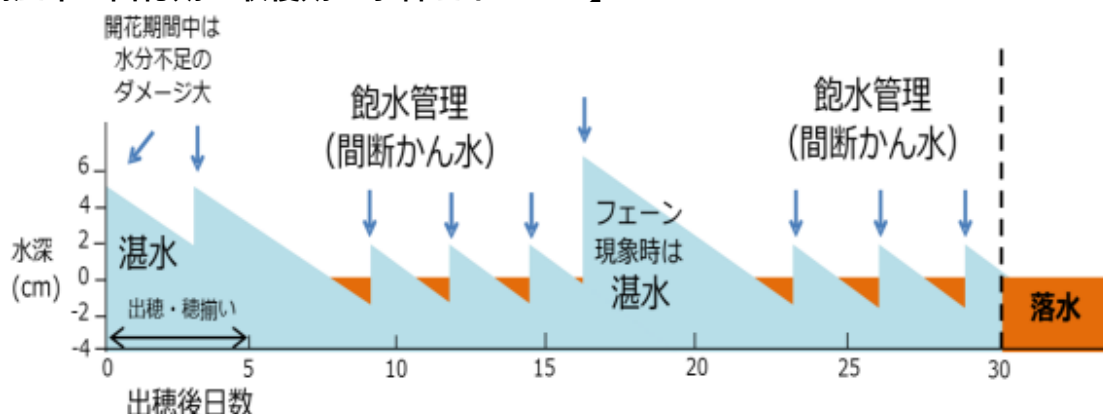
高温年は、

「飽水管理」または「通常より浅め、こまめな間断かん水」を実施！！
根の活力を維持しましょう！

高温年は稲体が消耗しやすく、水管理が食味や品質、収量に及ぼす影響が大きくなります。

「水のためっぱなし」、「田面にヒビが入るほどの乾燥」は厳禁です！！

【高温年の出穂期～収穫期の水管理イメージ】



■さくらんぼ

▶「褐色せん孔病」

前年発生が多かった園地では、降雨によって急激に拡大する恐れがあるため、10～14日間隔で薬剤散布を実施しましょう。

薬剤散布は、十分な散布量でムラなく丁寧に散布しましょう。なお、薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、**雨前散布を徹底**しましょう。

発生の多い園地では「ICボルドー66D」40倍を9月中旬と落葉後に単用散布しましょう。**※飛散には十分注意する**

▶「ハダニ」

ハダニ類の発生が見られる場合は、「コロマイト乳剤」1,000倍を**単用**で散布しましょう。



農薬名	対象病虫害	希釈倍数	収穫前使用日数 使用回数
コロマイト乳剤	ハダニ類	1,000倍	収穫7日前まで 1回

▶基肥

さくらんぼは、根が活動している9月に翌年に向けた貯蔵養分を蓄えるため、**8月中下旬～9月上中旬に基肥を施用**しましょう。



★JAてんどうおすすめ資材

肥料名	肥料成分%			施肥量 10a 当たり	施肥時期
	N	P	K		
FTE入り 王将有機80	10	6	1	5袋	8月中下旬～ 9月上中旬

■ 果樹全般の高温対策

8～9月の気温は平年より高くなる見込みです。高温対策を実施しましょう。高温少雨対策として、「灌水」「散水」「遮光」が効果的です。

◇ 灌水

- ・ 高温対策に加え、果実肥大促進効果も期待できます。
- ・ 灌水量は1週間に **10 a 当たり 20 mm程度**。朝夕の涼しい時間帯に実施しましょう。
- ・ 特に、幼木は根域が浅いため、積極的に灌水しましょう。
- ・ ただし、ももでは果実の軟化を抑えるため5 mm程度とします。

◇ 散水

- ・ 高温対策に加え、果実の着色促進効果も期待できます。
- ・ 日焼け防止を目的とする場合は、果実温度が高まる日中に1時間間隔で樹上から複数回散水しましょう。
- ・ ぶどうなどで着色促進を目的とする場合は、夕方に10 a 当たり200 ℓ程度を樹から散水しましょう。

◇ 遮光

- ・ 遮光資材を用いて果実への直射日光を遮り、日焼け果発生を防止します。
- ・ りんごなどでは、温度が上がりやすい樹体の西側や南側に資材を設置しましょう。
- ・ 高温時は徒長枝の剪定時期を遅らせるとともに、日焼け果が発生しやすい西側・南側の主枝は最小限の実施に留めましょう。

作物毎の詳しい対策は昨年に配布した
「**高温少雨対策マニュアル**」をご覧ください。



高温の影響で果実の着色は遅れる傾向にあるため、
**もぎ遅れにならないように、着色にとらわれず、
地色や食味などを考慮して適期収穫に努めましょう！！**